【三題噺】忘れないこと。

シュレディンガーの羊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【三題噺】 忘れないこと。

【Nコード】

N5693V

【作者名】

シュレディンガーの羊

【あらすじ】

翔の口癖が好きだった。

「いつか、一緒にドライブしたいね」
それだけが夢だった。

翔の口癖が好きだった。

「いつか、一緒にドライブしたいね」

それだけが夢だった。

翔は苺のアイスクリームが好き。

だから、おやつにそれが出ると僕をほろっていつてしまつ。
キラキラしたその瞳が嫌いになれないから、それでもいいけど、本
当は、苺のアイスクリームに負けてるみたいでちょっと切ない。

「ただいまっ」

それでも、走つて僕の所に戻ってくる翔が好き。
一緒に遊んでくれる翔が好き。

翔が小学生になった。

黒いランドセルを誇らしげに背負つて、僕の前で回つてみせる。

「聞いてよ。ぼく、学校でたくさん友達が出来たんだ」

そう笑つて、翔は友達の家へ遊びに行つてしまった。

もう前のようには、僕と遊んでくれない。
それでも、僕に沢山話しかけてくれる翔が好き。

翔と顔を合わせずに、もう6年が経った。
気づけば、いつの間にか、翔の主語が「ぼく」から「俺」になっていた。

「母さん、俺の携帯どこにあるか分かる？」

「えー、居間にあつたでしょ」

「あ、本当だ。あつた、あつた」

翔はもう僕を忘れてしまった。

苺のアイスクリームはまだ好きだけど、僕のこととは忘れてしまった。

まわりにひしめく物はなんだろう。

歯ブラシ。

紙屑。

壊れた傘。

短い鉛筆。

みんな一緒に押し込められた。

そして、久しぶりに見た翔はスーツを着ていた。

翔が僕等を指差して問う。

「母さん、このゴミ袋何ー？」

「ん？ああ、それ会社に行く途中に捨てて来てくれない？」

「りょーかい、燃えるゴミだよな」

こちらを見た翔と一瞬だけ、目が合った気がした。
気がしただけだった。

翔と僕等と一緒に家を出た。
もう、帰って来れないのが分かった。

久しぶりの外は雨が降っていた。

袋越しに見た翔は、黒い傘を差していて、大人になっていて。

そして、僕等は雨のゴミ捨て場に投げ出された。

小さな衝撃ひとつが、僕と翔のお別れだった。

翔は一度も振り返らなかった。

僕はそんな翔の後ろ姿をずっと見送った。

それさえ見えなくなつて、翔はまだ母のアイスクリームが好きなの
かなと思う。

「淋しいですね」

右隣りの壊れた傘が言った。

翔のお気に入りだった黄色の傘。

「悲しいですね」

左隣りの短い鉛筆が言った。

翔に初めて使われた2Bの鉛筆。

「そうだね」

僕はそう返事をした。

翔の一番のお気に入りだった赤いミニカーはそう答えた。

雨が袋の中に染み込んで、僕をなぞる。

翔は黒い傘を差して、入社祝いの万年筆を持って、僕を忘れてしまった。

あの日の翔はもういないの？

何処にもいないの？

苺のアイスクリームは、どうなっただろうか。

それだけが気になった。

「あら。何を買って来たと思えば、苺のアイスクリームじゃない。懐かしいわ」

「なんか急に食べたくなってさ」

「あんた、小さい頃はやたら好きだったじゃない」

「何言ってるんの、母さん」

「？」

「俺は今だって好きだよ。忘れてたりなんかしてない」

(後書き)

三題漸として書きました。

赤いミニカー、傘、苺のアイスクリーム。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5693v/>

【三題噺】忘れないこと。

2011年10月9日01時14分発行